

## 日本人口学会関東・東北地域部会第2回研究報告会

日本人口学会関東・東北地域部会の1998年度第2回目の研究報告会は1999年3月13日、宮城学院女子大学（宮城県仙台市）にて開催された。報告は以下の4つ。

- ・人口移動要因と人口移動圏 大友 篤・田村朋子（日本女子大学）
- ・大学進学パターンの地域的変動 阿部 隆（宮城学院女子大学）
- ・1990年代前半期の東北地方における人口変動と産業配置 日野正輝（東北大学）
- ・21世紀の日本の世帯数－日本の世帯数の将来推計－

西岡八郎・鈴木 透・小山泰代・山本千鶴子・小島克久（国立社会保障・人口問題研究所）

第1報告は、人口と県内総生産の2指標をもとに、人口移動を規定する要因および人口移動圏を論じた。東北地方6県の大学進学パターンを検討した第2報告では、80年代後半以降に宮城県が他の東北5県に対し、就業地や生活の場としての吸引力は増大させたものの、大学の進学先としての吸引力を低下させていることが指摘された。第3報告では東北6県の人口および産業別従業者数の動向が検討された。90年代は地域全体でみると、製造業従事者が減少し、建設業、商業、サービス業が増加していること、市町村単位にみると、小規模町村で建設業従事者の構成比、増加数が大きく、大規模都市では商業・サービス業の構成比、増加数が大きいことが明らかになった。第4報告は当研究所が1998年10月に公表した「日本の世帯数の将来推計（全国推計）」に関する報告である。今回の推計は世帯推移率法と呼ばれる、推移確率行列を用いて将来の配偶関係と世帯内地位の組み合わせを求める新たな推計手法を採用したが、報告は結果の解説を中心におこなわれた。年度末に開催された今回の研究報告会では限られた時間に活発な討論がおこなわれた。会の企画・運営に尽力された宮城学院女子大学の阿部隆先生、早稲田大学の嵯峨座晴夫先生に感謝する次第である。（中川聡史記）

## 第9回日本疫学学会学術総会に出席して

第9回日本疫学学会学術総会は1999年1月21～22日に名古屋市で開催された。本学術総会のメインテーマは「疫学研究のブレークスルーを求めて」であり、シンポジウムのテーマと同じである。教育講演のテーマは「生活習慣：静と動の基礎理論」で次の3題の発表が行われた。1. 基礎心理学から見た「休養」、2. 睡眠障害の疫学、3. 身体活動の量と質の測定・評価であった。なお、会長講演は「難病と生活習慣」であった。シンポジウムでは「疫学にどんな情報が求められているか」、「研究方法の理論と実践の接近」、「要因暴露と転帰の測定媒体としての質問調査、生物学的測定、届け出・申請事項」、「観察研究から脱却」、「遺伝情報の活用」、「病院における介入研究」、「行政施策への反映」の7題であった。最後の演者は厚生省保健医療局の塚原枝官であった。

一般報告から死亡研究を拾い出せば、「高齢期における配偶者死別と死」、「血清脂肪酸値とがん死亡率との関連」、「途上国の人口動態統計に関する研究」、「交通事故死亡の都道府県格差に関する要因分析」、「和歌山県におけるパーキンソン病罹患率の推計」、このほか癌、脳卒中死亡研究などの発表が行われた。メインテーマは「疫学研究のブレークスルーを求めて」であったが、言うは易し、行うは難しの感であった。本学会総会に出席し、益々の疫学研究の重要性が感じ取られた。なお、筆者は「国勢調査を用いた15歳以下の多胎児数の推計」について発表をおこなった。（今泉洋子記）